

【台湾魅力発信】 李永得・客家委員会主任委員特別インタビュー

公益財団法人日本台湾交流協会台北事務所
総務室主任 寺山 学

今般、台湾の新たな魅力発信との観点から、客家政策を所管する行政院客家委員会の主任委員（大臣に相当）を務める李永得・客家主任委員から、台湾客家人の現状や客家文化の魅力についてお話を伺いました。

- ・インタビュー実施日 2019年2月25日
- ・インタビュー実施場所 行政院客家委員会
- ・インタビュアー 公益財団法人日本台湾交流協会台北事務所総務室主任・寺山学

~~~~~<李永得・客家委員主任委員略歴>~~~~~

- ・出身：高雄市美濃区
- ・学歴：国立政治大学政治学科卒業
- ・主な経歴：  
行政院客家委員会主任委員（2005年～2008年）  
高雄市政府副市長（2008年～2014年）  
高雄市政府顧問（2014年）  
行政院客家委員会主任委員（現在～）



（寺山）まず、台湾の客家文化とは何か、台湾で人口の多数を占めるミンナン文化とはどう異なるのかについて教えてください。

（李主任委員）「客家」とは何か。客家アイデンティティの基は客家文化にあり、客家文化の最大の要素は「客家語」にあると言えます。民族的に異なる原住民族とは違い、同じく漢民族である客家人とミンナン人（閩南人）、外省人とは外見上では殆ど区別することができません。そのため、客家人意識の根底には独自の言語があり、言語が客家文化の核心的要素であると言えます。客家人は「客家語がなければ、客家人は存在し得ない。」と

よく言いますが、言語は他のエスニシティとの最大の違いなのです。

客家人の信仰については、多くの客家人はミンナン人を同様、媽祖などの神様を信仰します。他方で、客家人独自の信仰は「義民信仰」です。台湾北部と南部では呼び方こそ異なるものの（北部：義民、南部：忠勇公）、義民信仰は客家人共通の信仰であると言えます。後述のとおり、客家人は伝統を重んじ、外敵に対して団結して戦います。そのため、故郷を守るため亡くなった人々は「義民」として廟で手厚く奉られ、それが時代と共に神格化され、次第に義民信仰として客家人共通の信仰となっていきました。



義民廟總本山（新竹県新埔郷）



苗栗鉄道文物展示館（苗栗市）

六堆客家文化園区（屏東県内埔郷  
南部客家について展示）

客家文化を象徴するもう一つの要素は、客家料理です。中でも「客家小炒」という料理は最も典型的な客家料理だと言えます。「客家小炒」は豆腐干、イカの一夜干しとお肉を炒めたものです。客家料理の特徴としては、住民の多くが丘陵地帯に住んでいることから、伝統的に海鮮をあまり使用しないこと、また漬け物と干し物が頻繁に用いられることが挙げられます。

客家人とミンナン人の個性の違いについて言えば、ミンナン人は中国大陸において比較的沿岸地域で生活してきたため、その個性は「海洋的」で「冒険家」的な個性を持っています。これに対し、中国大陸でも丘陵地域や山間部の資源が乏しい地域に暮らすことが多かった客家人は、非常に「保守的」で「慎重」な性格だと言えます。ビジネス面でも、保守的な客家人は、他人から借錢すること

とを嫌う傾向が強く、自身が所持している資金だけで商売する傾向があります。そのため、台湾の大手企業のオーナーにミンナン人が多いのに対し、客家人が経営する企業は小規模で、保守的な経営を行うものが多いです。

また、職業面では、客家人は伝統的に教育を重視しており、教職に就く者が多いです。また公務員、警察においても客家人の割合は高いです。興味深いのは、伝統的に鉄道局職員における客家人の割合が極めて高いことです。何故、鉄道関係者に客家人が多いのか、まだ十分な学術的な研究がなされていませんが、歴史的に資源に乏しく過酷な生活環境にあった客家人だからこそ鉄道建設という重労働に耐えることができたとの見方もあります。以前は、鉄道の切符を買うとき、中国語で話すと「売り切れ」と言われるが、客家語で話すと切符を売ってくれるという笑い話もあったほど、鉄道局には客家人が多かったのです。

（寺山）客家人の精神や性格を表す言葉として、「硬頸精神」（※直訳すると「首が硬い精神」、「粘り強い」という意味の他、「簡単に首を縦に振らない」との意味もある）という言葉もありますね。

（李主任委員）「硬頸精神」には、良悪二つの意味があるため、中にはこの言葉を認めたがらない客家人もいます。「硬頸精神」には、自分が正しいと

思うことは、どんな困難にも屈しないというプラスの意味がある一方で、頑固すぎて話しにならないというマイナスの意味があります。確かに客家人はこの言葉のように両極端の性格を兼ね備えているようにも感じます。実際、客家人は平時においては時の統治者の言うことを素直に聞く傾向があり、「保皇派」とも揶揄されます。その一方で、非常時においては「革命的」な性格を見せることがあります。実際、太平天国の革命を起こした洪秀全、中華民国を建国した孫文、朱徳を始めとする共産革命の指導者は皆客家です。台湾でも同様で、1977年の中壢事件を始め多くの反政府の革命的な動きに客家人が関わっています。また、1895年に日本が台湾に進出した際に最も激しく抵抗したのは客人でした。日本軍は当時、基隆から上陸し、辜顯榮氏の助けもあり、わずか10日で台北に入ることができましたが、その後、南下すると新竹、苗栗で激しい抵抗に遭いました。ここで日本軍に立ち向かった者の多くが客家だったのです。彼らは兵力に歴然たる差があることは理解していましたが、外敵から自身の家族を守るために自らの命を犠牲にして、勇敢に日本軍に立ち向かっていきました。非常時において、おとなしく服従するのではなく、守るべきものため自己犠牲の覚悟こそ客家の「硬頸精神」なのです。こうした精神には、当時日本軍の兵士も強い感銘を受けたと聞いています。なぜなら、客家のこの精神は、日本の「武士道」に通ずるものがあったからです。この歴史は、「1895」という全編客家語の映画にもなっています。是非、皆様にご覧になって頂きたいです。

(寺山) 先ほど李主任委員から客家の教育について言及がありましたが、台湾の客家地域に行くと、「敬字亭」と呼ばれる文字が書かれた紙を処分するための焼却炉を目します。これも教育を重視する客家ならではの伝統文化と言えますね。



敬字亭（高雄市美濃区）

(李主任委員) その通りです。客家人は教育を特に重視してきましたが、その延長で文字を神聖化する考えが生まれました。客家人は文字には魂が宿ると信じ、本や文字が書かれた紙は神聖な焼却炉で大切に処分されなければならないと考えられてきました。

(寺山) 李主任委員から「客家語」は客家文化の重要な構成要素であるとの話でしたが、話し手が減っている客家語の状況に鑑み、客家委員会は設立以来、客家語の普及に力を入れ、客家テレビ局を設立するなど様々な施策を講じられてきました。こうした政府の努力の結果として、客家語の普及の面ではどのような成果が得られましたか。

(李主任委員) 客家委員会は設立以来、客家語の普及のため様々な努力を行ってきました。その努力の成果については以下の2つの面から述べることができます。まず、客家語普及活動を通じて、客家の間で客家意識を向上させることができました。20年以上前は、多くの客家にとって、自分が客家であることはなかなか公言

することができませんでした。それは、客家人であることで当時の（国民党）政府から様々な不利益を受け、また台湾の人口の七割を占めるミンナン人とも歴史的に様々な軋轢が生じていたためです。実際、ミンナン人と客家人の間には深い対立の歴史があり、かつては客家人がミンナン人と結婚すると言うと、客家人の両親や親族に強く反対されることがよくありました。こうした状況が変化し、客家人意識が台頭する契機となったのは、2000年の民進党政権の発足です。国民党時代には「国語」を話す人がエリートとの刷り込みが行われましたが、民進党政権の発足を契機に文化の多様性が重じられ、「客家語」を含む台湾土着の言語も重視されるようになりました。こうした政策の変化によって、人々の間で意識変革が生じ、客家人は自身が客家人であることを堂々と公言できるようになったのです。

その一方で、政府の施策が衰退の一途にある客家語の普及にどれほどの効果があったかについては、率直に言って「入不敷出（※プラスもあるが、マイナス分の方が大きいとの意味）」と言わざるを得ない状況です。政府として多くの努力を行ってきましたが、客家語の衰退のスピードはそれ以上に早く、衰退の速度を緩めることはできても、衰退自体を食い止めるまでには至っていません。

我々は考え方を変える必要があると感じます。客家語の衰退を食い止めるためには、客家語教材を充実させ、学生に客家語の学習を促すだけでは不十分であり、それよりも重要なことは、日々の生活において客家語を話す環境を作っていくことだと思います。教育面では、客家語自体の教育ではなく、客家語を用いた教育を行うことにより注

力すべきだと思います。この点、昨年修正が行われた客家基本法が重要な役割を担うことを期待します。今次基本法の成立によって、客家語が正式に台湾の「国語」の一つと認められ、また客家語人口が全人口の半分以上を占める自治体を「客家地区（客家莊）」と指定し、同地域において客家語の使用を促す施策を講じていくことが決まりました。これにより、同地域の学校、病院や市役所といった公的機関において、客家語の使用が奨励されるようになります。最近の興味深い例としては、先日客家地区で行われた警察の強盗対策訓練において、犯人役から警察役まで参加者全員が客家語で訓練を行った試みが挙げられます。

（寺山）日本には「崇正会」という在日客家人が参加する組織があるなど、日本と客家の関係は歴史的に深い関係にあると思います。現在の客家人と日本との関係についてどう見ますか。

（李主任委員）日本には多くの客家人が生活しています。客家人の特徴として世界中の何処でも少数派であるため、客家人同士で団結する傾向が強いことが挙げられます。日本の客家人も同様で、「崇正会」という組織を結成し、客家人同士で強い繋がりを深めてきました。「崇正会」の活動によって、在日客家人の間で客家人としての意識が維持されてきました。また、日本の学術界における客家研究は非常に進んでおり、日本の民族博物館にも多くの客家関連の文物が所蔵されています。さらに、有名な宝塚歌劇団でも在日客家第二世代の方（謝珠榮氏）が活躍されています。このように、日本と客家は非常に深い関係にあると言えます。